ごぞんじ寄らば斬るど！

稲垣史生

5563
日文 701596877

ごぞんじ寄らば斬るど！

稲垣史生

作品社

大東文化大学 国語学院図書館 蔵書

稲垣史生（いながき・しせい）
一九一五年富山県に生まれる。早稲田大学卒。東京新聞記者、雑誌編集長を歴任、テレビ・映画などで時代考証の第一人者として活躍。昭和五〇年第一回放送文化基金賞受賞。著書に『戦国武家事典』『江戸生活事典』『時代考証事典』『江戸の再発見』『考証　テレビ時代劇を斬る』『考証　風流大名列伝』ほか多数。

ごぞんじ　寄らば斬ると
一九八四年九月二五日第一刷印刷
一九八四年九月三〇日第一刷発行
著者　稲垣史生
発行者　大村　勇
発行所　株式会社　作品社
製作・作品企画
東京都千代田区飯田橋二ノ七ノ四
〒一〇二　電話（〇三）二六二一九七五三
振替口座（東京）六一二七一八三
本文印刷　図書印刷
カバー・扉　栗田印刷
製本　小泉製本
定価　九八〇円
©Shisei Inagaki 1984
ISBN 4-87893-103-5 C0022

ごぞんじ　寄らば斬るど！——目次

チャンバラ文化の間違い症候群……9
弁髪を忘れた清国人の怪！……12
見るものなしテレビの荒廃……14
髷物に偽田中軍団現る……16
金看板は出鱈目とみつけたり……18
考証家はタビカゴ屋へ……20
縁座忘れの「原惣？」……22
黒装束で飛ぶ臍曲がり水軍……25
吉良を斬らず二階から銃撃！……28
バッチリキナ臭いのは政局だよ……31
竜馬はヤバく柳生ラッパ鳴り響く……34
よう候は海軍ダイイだけ……37
不沈空母ならぬ髷物蜃気楼……40
時代劇ならぬ痴態劇の花盛り……43
御台様へ〝気くばりのすすめ〟……46
勝利するまで苦しうないと殿様……49
秀吉アッツ島に玉砕!!……52
ラッパが笛を吹く怪奇作！……55

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

女嫌いとはああ眠い狂四郎……58
NHKに「気くばりのすすめ」をすすむ……61
油にすべって油奉行御用！……64
世界的アイディア牢屋の偽火事……67
西洋髷ものおおワンダフル……70
大奥犯科帳は駄作賞確かでオジャル……73
何と水面に浮く牡丹雪の怪！……76
「壬生の恋歌」やめたらどうで賞……79
三文オペラじゃおまへんで……82
懐かしや藩邸でバケツリレー……85
眠狂五郎にすっかり乾き候……88
金さんの入墨手代に卒倒！……91
ずらり50年前の活動大写真！……94
馬の脚ばかり見せる大河ドラマ……97
泥棒が警官をしょっ引く怪！……100
今度は鈴健「毛くばりのすすめ」……103
医科歯科大系スペ勘作品……106
〝病は気から〟の歴史認識！……109

8時だヨ！　全員死体の逆さ吊り……112
謎の暗殺事件ちょん番版！……115
げらげら笑う怪談の怪！……118
左打ち黒ヘルの小姓は三振じゃ……121
前田利家の狂死に驚死！……124
家康はシビレ三成はヤバイ……127
教育ママさん再放送を排す……130
切腹の作法を伝授つかまつる……133
肝心のお錠口みな違うぞえ……136
時代劇やめたらどうで賞大会……139
前代未聞のばかクイズに腰が抜け……142
何が面白クイズかがクイズ……145
角讃ドラマに史生が憤死！……148
八百屋で野菜を買った名君吉宗……151
腐敗ドラマに野坂流斬りこみ……154
〝畜物倫理〟に清き一票を……157
五三ならぬ誤算の桐変化に失神！……160
驚きは大奥女中の屁の交響楽……163

肌脱ぎにならぬ金さんはイケズ……166
新春の味つけか寒椿や電気炬燵……169
やたら越後屋が出る選挙後の時代劇……172
自動スダレや妖刀地蔵斬り怪談集……175
ねずみ年だよ床下チャンバラ！……178
ああバタビアの新宿歌舞伎町……181
放ウソ協会のふしぎな大戦物……184
中尉殿をやくざが投げる鼠年……187
スペシャルすべて変じゃなか……189
これは驚き裏柳生や公儀介錯人……193
組屋敷を抵当にする町同心に気絶……196
奉行所前が飲み屋街で腰が抜け……199
でたらめの三つ葉葵控えい！……202
花岳寺の字が違うドジな黄門……205
皮肉かね船手組のお救小屋……208
何やら臭い船手組お救小屋？……211
風呂と湯の区別も知らぬ紙芝居……214
前代未聞よ鼠を取らぬ猫！……217

〝史生失神〟を副題に使われて失神……220
戦争を知らぬ盲ドラマ『山河燃ゆ』……223
逃げ足の早い駄作『夫婦ねずみ』……226
面番所・忘八・極印など皆違う……229
ワンダフル・江戸時代のスモッグ……232
時代を間違えた郷ひろみの醜怪尼……235
ちょん髷時代に昭和三十年の道標……238
皆の者出ておじゃれと公家剣法……241
花街をハナマチでは甚はた間違い……244
越前は窓ぎわ道中奉行は検視旅……247

装丁　前野洋一
カット　杉浦才樹

ごぞんじ

寄らば斬るど！

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

チャンバラ文化の間違い症候群

戦前の時代劇に、大家が旗本屋敷へ家賃を取りに来るのがあった。この話、中学二年生でも吹き出すに違いない。旗本屋敷は官舎であり、禿茶瓶（はげちゃびん）の大家の出る幕ではない。

ところが何と、先進工業国として驚異の的の日本の、チャンバラだけは戦前も戦前、松之助時代と同じことをやっている。平気で大家が旗本屋敷へ家賃を取りにやって来そう。何もかも日進月歩だというのに、どうしてチャンバラだけは間抜けばかりやっているのか。

小説やドラマは人間性の探求が大目標で、それへの手掛りとして過去、現在の人間の比較がある。そして両者間に共通点を見出したとき、目標に一歩近づいたことになる。それには過去の人間像を、ありのまま描き出すことが第一条件だ。この過去の人間像――何を食べ、何を着、どんな家に住んでいたかを適確に割出す役目が時代考証である。その手法によって人間の本性に触れたとき、私たちははじめて大きな感動を覚える。

NHKの大河ドラマ『山河燃ゆ』は、この人間性の探求なる目標を忘れた愚作である。一体、制作者は何を言おうとしているのか、何が目的でこの長篇を、数億円もかけてやろうというのか。出て来る人間の生き方も、根底にある思想も分からない。カリフォルニアの収容所へ移されるのに、

「疲れた、疲れた」

といいながら、セット撮影だからちっとも疲れて見えない。ことばが全部最近の日本語なのも大笑い。私は戦前の新聞記者なので、一世、二世の日本人はよく知っているが、皆、苦労した人たちだけに、筋金入りで深い眼の色をしていた。根っからの国家主義者で、あいまいなのやにやけたのは一人もいなかった。まるで違う。テレビでは戦後の現代語を使い、身ぶり動作もまったく軽薄な現代人で、達者なのは男女の他愛ないイチャツキばかり。原作をまったく無視している。原作を離れる理由は日米間の国民感情を考慮してだろうが、それなら原作以上のシチュエーションを用意すべきだ。

といっても無理な話で、戦後派のスタッフには深い眼をした在米邦人の姿は浮ぶまい。〈荒野のパーティ〉の一篇など、ありゃ一体何じゃね。話すことばが戦後四十年の現代語なら、ドレスも靴も皆その感覚、これじゃ大戦中の収容所と思えという方が無理じゃよ。せいぜい田舎の猿芝居である。

同じころ朝日系テレビで『大日本帝国』を放送していた。問題があるといえばこっちの方で、無意味なバンザイ突撃や東京裁判の東条の答弁、

「全責任は私にある」

などは議論のあるところ。だが、制作者が訴えようと思うところを、大胆・率直に表現した態度は正しい。真の人間性は戦争という異状事態に、最もあからさまに露呈される。

『大日本帝国』はその頂点での人間性に迫っている。もしそこに問題が起れば、改めて対決すればよい。お粗末『山河燃ゆ』の腑抜けぶりとの対照、そっちの方がドラマよりよほど面白かったよ。

弁髪を忘れた中国人の怪！

ＮＨＫの次回大河ドラマが戦国もので、前宣伝によれば関ヶ原のロケに入っているとか。またか……とうんざり、今まで何度関ヶ原戦をやったことか、もう合戦ごっこは飽き飽き、ほかに何か無いのかねと思っていたら、さすが民放、日テレ系で『黄土の嵐』という中国ものをこの時間帯にぶつけて来た。これは変わっている。原作は『児女英雄伝』『三俠五義』など中国の伝奇小説だ。が、その意欲だけは買うがあとがいけない。衣装もアクションも皆日本的、または現代中国的で清時代になっていない。第一、清国だというのにひとりも弁髪がいないのは忘れたのかね？　この時代に弁髪なしでは、メモを忘れたか、または飛ばし読みした鈴木総理に等しい。

弁髪は頭の周囲を剃り、頭上の毛だけを編んで長く背に垂らしたもの。満州から起こった清朝が、お国ぶりを中国全体に及ぼした、いわば征服のシンボルだ。これをやらねば罰せられ、

「糊塗！」（愚者）と罵られた。だから日清戦争の絵でも、長崎丸山遊廓の絵でも、かならず中国人は弁髪にしている。

それがドラマでは、頭頂で太く束ねて髻で結んでいる。これは遠く唐時代の髷型、洒落ではないがとうに廃れてこの時代にはなかった。ヒロインの玉鳳の髪もまた明時代のもの。清では髷を結い、華やかな髪飾りをつけている。驚いたのは玉鳳のその髪飾りで、子供だましの玩具のビー玉つなぎではないか。これで多少は調べたのかね。服装よりアクションがまるでなっていない。清国当時はきまって両手を左右の袖口へ入れ、けっしてぶらんと下げてはいなかった。人と出会えば拱手礼といって、そのまま頭を下げればよい。こんなこと誰だって知っているよ。

そうそう、頭で思い出したのはＮＨＫの『獅子の時代』。北海道の監獄だというのに、囚人が皆頭髪をのばしている。中には油をつけた奴もいれば、ウエーブを掛けた奴もいる。どこでパーマを掛けたのかね？　当時、囚人はすべて丸坊主だったことは、私は入ったことないが、知っている。おお糊塗！

見るものなし
テレビの荒廃

秋の連休にテレビを見ようと思ったが、何と、見るべき価値あるもの一本もなしという新聞の投書があった。仕方がないのでNHKの『シルクロード』を見たというが、これも私に言わせると二番煎じ、流砂の彼方の茫漠たるところにロマンがあったが、井上靖さんはじめ続々と出かけ、本で紹介されたあとは夢が消えて興味がない。NHK出版の『シルクロード』が四冊も出ているが、一ページも覗いて見たことがない。

まったくテレビの荒廃時代、ネタがもうねえんだね。チャンネルを回したら朝日系の『柳生あばれ旅』が出た。副題は〈関所狸の七変化〉というから、どう面白く騙してくれるかと思ったら、旅人の道中手形をスリ取ったあと、金で関所を通してやると持ちかけ、連れの女を宿場女郎に売るという悪党の話。何だ、三船敏郎の『江戸の鷹』にこの話はあったね。まねをするのは勝手だが、間違いまで持ち込んでは困るよ。道中手形といったのは関所手形の間違い。周

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com